

野跡小学校と稲永小学校の統合について

- 小規模校は「学校行事ですべての児童に活動の場を与えやすい」「異学年の交流が図りやすい」「一人ひとりの児童にきめの細かい指導がしやすい」といったよさもある一方、「様々な考え方や価値観に出会い、社会性や協調性、コミュニケーション能力を伸ばす機会が限られる」「人間関係の固定化や男女比の偏りが生じやすい」「集団学習、班活動やグループ分けなどに制約が生じる」といった課題もあります。
- 野跡小学校は小規模校であり、今後も小規模校が継続する見込みであることから、隣接する**稲永小学校との統合**により、望ましい学校規模の確保に向けた取り組みを行います。

1 野跡小学校の現状等

(1) 学級数・児童数、学区の未就学児数（令和3年度）

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳
1 学級	1 学級	1 学級	1 学級	1 学級	1 学級	2 学級	17 人	18 人	19 人	19 人	31 人	28 人
27 人	24 人	31 人	29 人	25 人	35 人	8 人	132 人					
179 人												

特支：特別支援学級

(2) 学級数及び児童数の見込み

令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
6 学級	6 学級	6 学級	6 学級	6 学級	6 学級	6 学級
171 人	160 人	158 人	141 人	124 人	112 人	102 人

※特別支援学級の人数・学級数は含みません。

2 稲永小学校の現状等

(1) 学級数・児童数、学区の未就学児数（令和3年度）

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳
1 学級	2 学級	2 学級	2 学級	2 学級	2 学級	2 学級	40 人	26 人	34 人	33 人	34 人	52 人
24 人	49 人	47 人	55 人	55 人	63 人	6 人	219 人					
299 人												

特支：特別支援学級

(2) 学級数及び児童数の見込み

令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
11 学級	11 学級	10 学級	9 学級	8 学級	7 学級	8 学級
293 人	279 人	256 人	232 人	217 人	193 人	207 人

※特別支援学級の人数・学級数は含みません。

○取り組みの考え方

- ・取り組みの方法

野跡小学校と稲永小学校を、現在の稲永小学校の場所で統合します。

（理由）

- ①野跡小学校と隣接している学校は稲永小学校のみであること。
- ②稲永小学校から野跡小学校が分離した経緯があること。
- ③稲永小学校の方が、敷地面積が広いこと。

※稲永小学校の敷地面積が 12,830 m²、野跡小学校の敷地面積が 12,288 m²

- ④統合場所を稲永小学校とした方が、通学距離が近いこと。

※通学距離（最も遠い地点からの距離）

野跡学区（野跡三丁目～稲永小学校 約 1.6km）

稲永学区（稲永一丁目～野跡小学校 約 1.7km）

両校の沿革

野跡小学校の沿革	稲永小学校の沿革
昭和 50 年 4 月 港西小学校汐止分校として開校 昭和 51 年 4 月 稲永小学校が独立したのを機に、稲永 小学校分校となる。 昭和 52 年 4 月 野跡小学校として開校	昭和 26 年 11 月 港西小学校分校として開校 昭和 51 年 4 月 稲永小学校として開校

3 統合校の規模

(1) 学級数・児童数、学区の未就学児数（令和3年度の両学区人数等を合算したもの）

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳
2 学級	3 学級	3 学級	3 学級	2 学級	3 学級	2 学級	57 人	44 人	53 人	52 人	65 人	80 人
51 人	73 人	78 人	84 人	80 人	98 人	14 人	351 人					
478 人												

特支：特別支援学級

(2) 統合を想定した場合の学級数及び児童数の見込み

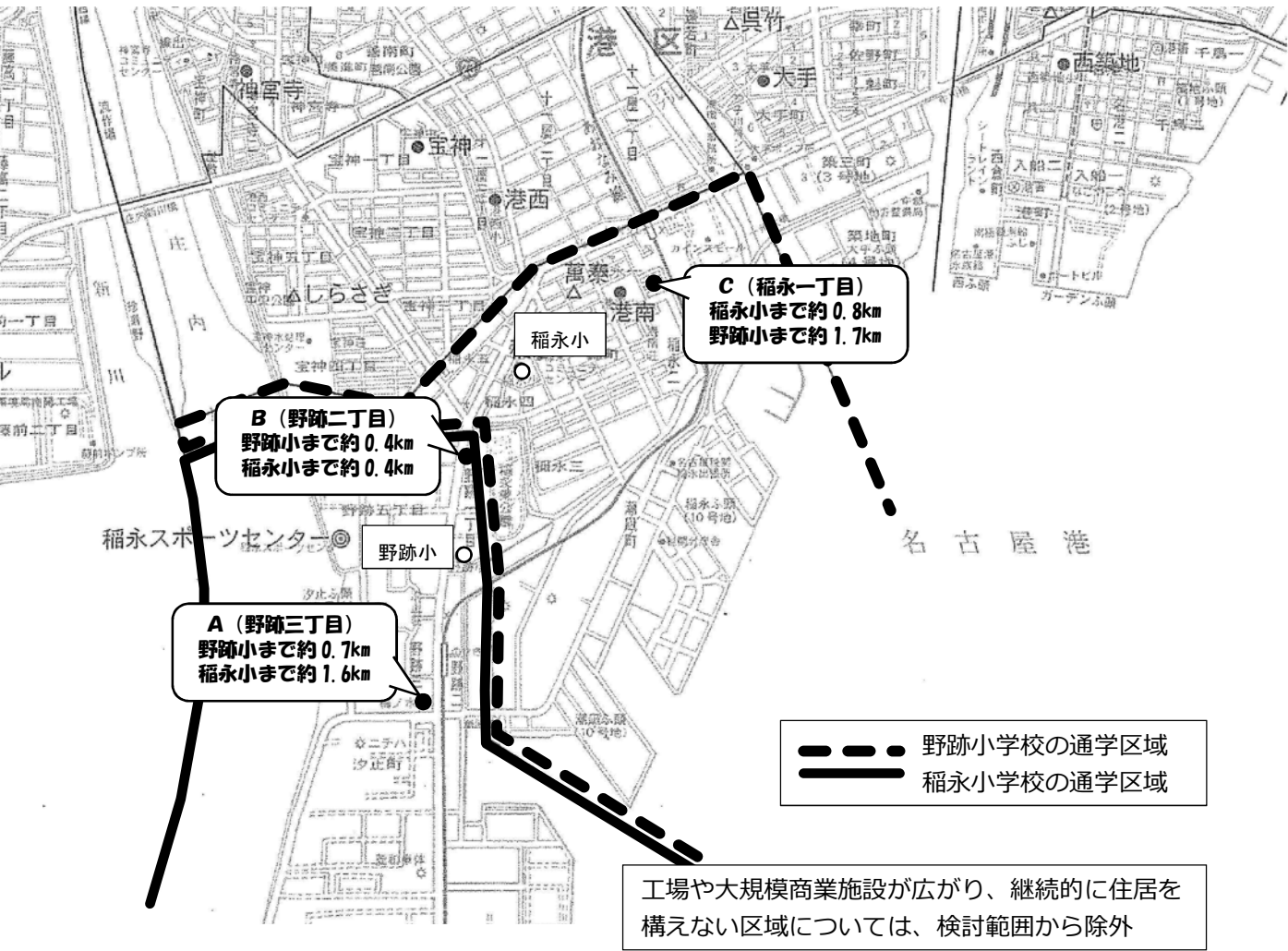
令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
16 学級	16 学級	16 学級	15 学級	14 学級	13 学級	13 学級
464 人	439 人	414 人	373 人	341 人	305 人	309 人

※特別支援学級の人数・学級数は含みません。

4 通学区域及び通学距離

新しい通学区域は、現在の野跡小学校及び稲永小学校の通学区域とします。

主な通学距離は、以下の図のとおりです。



※この地図の作成にあたっては、名古屋市学校配置図の一部を使用し、複製したものです。（東洋地図株式会社承諾済）

5 通学の安全対策

統合の決定後、統合校の開校に向けて、安全点検や地域・交通状況などの特性を踏まえて新しい通学路を設定するとともに、必要な安全対策について関係行政機関と連携を図り、通学の安全確保に取り組みます。

（取り組みの例）

信号機や歩道橋の設置状況を踏まえた通学路の検討、歩行者用信号機やガードレールなどの安全施設設置の検討、注意標識設置の検討、交通指導員配置の検討、地域ボランティア等見守り活動への協力依頼や実施検討、通学練習会実施の検討等

6 施設整備の方向性

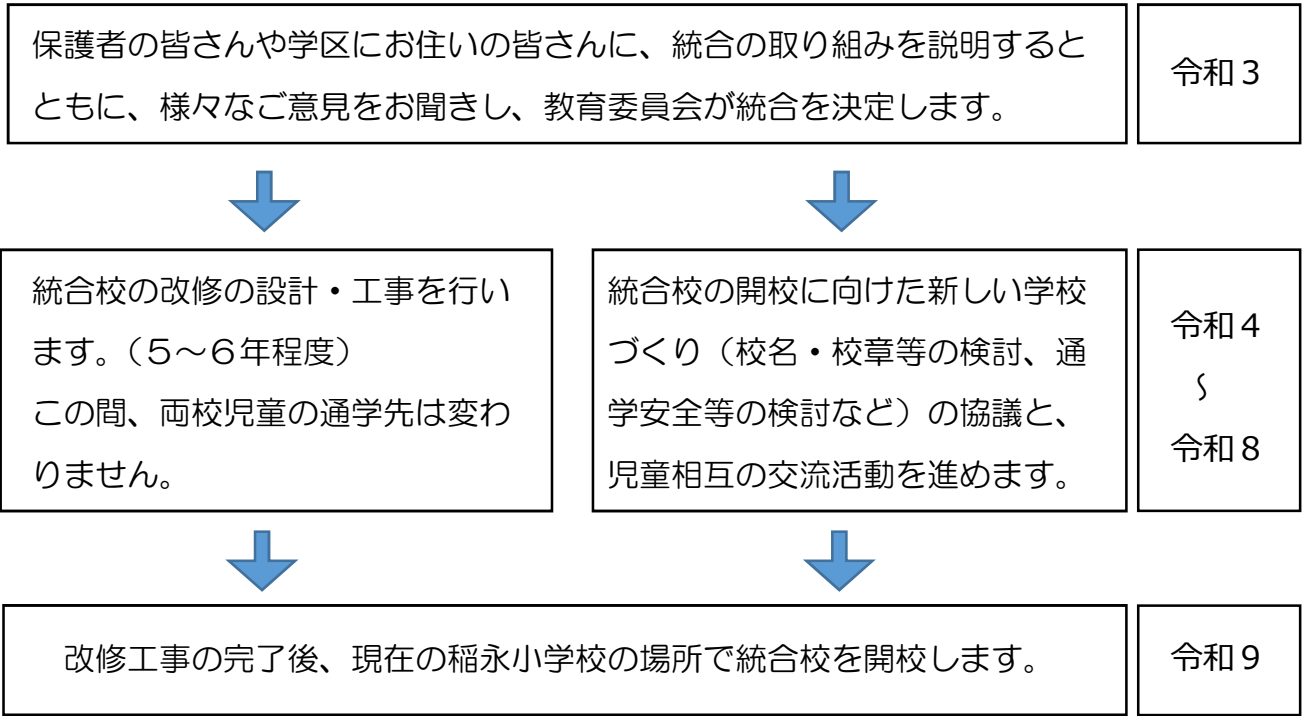
統合にあわせて、現在の稲永小学校の校舎等（体育館やプールを含む）を改修します。

7 今後のスケジュール（想定）

統合校を整備する場合、両校児童の安心・安全な学校生活が確保できるような学校運営等を前提とした検討が必要となります。

以下は、通常の学校の改修事例を踏まえ、想定されるスケジュールです。

（右枠内に記載した年度は、令和3年度に統合決定した場合の目安を記載しています）



8 問い合わせ先

名古屋市教育委員会事務局教育環境計画室

電話：052-972-4091、FAX：052-972-4176

E-MAIL：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

港区における統合の取り組み

<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/11-10-5-5-4-6-0-0-0-0.html>

